不登校生徒対応方針

◆未然防止として

・すべての生徒が、学校（学年・クラス）を魅力ある場所と感じられるように努める

居場所づくり　…　教員が主導して、どの生徒にとっても落ち着けるような、居心地のいい学校やクラスを作ることを目指す。

きずなづくり　…　生徒が主体となって、日々の授業や行事などで全員が活躍し、互いが認められる場や機会があることを経験させる。

※教師は場と機会の設定を行う

◆早期発見のポイント

①子どもたちが出すサインを見逃さない

【学校での兆候】
ア　理由のはっきりしない欠席が多くなる
（風邪、頭痛、腹痛などの連絡があっても、継続的に繰り返される場合は要注意）
イ　身体の不調を訴えて、保健室に行くことが多くなる
ウ　休日の翌日や、特定の教科の日に欠席が多くなる
エ　休み時間に一人でいることが増える
オ　遅刻・早退が増える

【家庭での兆候】
ア　前日には登校の準備をするが、朝になるとなかなか起きてこない
イ　朝、登校を促すと、頭痛・腹痛・下痢・発熱などを訴えて休みたがる
ウ　食欲が無く、口数が減り、表情が暗いことが増える
エ　朝の準備（朝食・身支度）に時間がかかる⇒休まないが、ぐずぐずして遅刻が増える
オ　外出して友だちと遊ぶことが減り、自宅（部屋）にこもることが多くなる

②早期発見のための手立て

上記の視点から観察を行ったり、情報収集やアンケート調査を行うなど、以下の点に気をつける。

ア　授業だけではなく、休み時間などにも声をかけて、子どもの様子に注意を払う。
イ　子どもからの相談は、どんな小さなことでも親身に聞いて対応する。
ウ　いじめと不登校は関係していることが多いため、背景にいじめが無いかしっかりと把握する
エ　定期的な教育相談だけではなく、いつでもなんでも相談できる雰囲気を作っておく
オ　本人だけではなく、周囲の生徒の声も聞き洩らさないようにする
カ　他の教員と連携し、授業中の様子等気になることがあれば、しっかりと話を聞き取る
キ　アンケート（生活・いじめ・QU）等を活用して、子どもの状態を客観的に把握する
ク　保護者と密に連絡を取り、生徒の状態について情報収集をする
（友人関係、学校・教師への不信等）
ケ　可能な限り学校外の情報収集を行う（親子関係・家庭環境　等）

◆長期化したときの対応

【家庭訪問について】

週に一度くらい、一定の時間に家庭訪問を行う　**※継続が大切**

・本人と会えないときは、手紙やメモを残す
・本人と会える時は、本人の好きなことや得意なことを一緒にしたり楽しい話をしたりする
・家庭訪問によって、強い身体症状が出る場合はしばらく訪問を控える
・本人や保護者との信頼関係を築いていく
・保護者の支えになる（月１くらい、来校してもらい話を聞く。SC の活用も勧める）

◆不登校の基本的な対応について

①初期対応（休みはじめ～１週間）　何かおかしいなと感じることができる感性が大切

生徒（欠席）	担任	
１日目	電話連絡	・本人と話をして声かけを行う ・病気欠席でも、病状や医療機関の受診の有無、その日の過ごし方などを聞き取り、生徒の様子を把握する ・明日の連絡等を行う
２日連続	電話連絡または家庭訪問	・「心配している」「待っている」等の気持ちを伝え、安心して登校できるような声かけをして支援する ・体調（受診状況） ・過ごし方（昼夜逆転・不眠・食欲など） ・気になることや不安なことの聞き取り ・保護者からも聞き取りを行う　学年で情報を共有
３日連続	家庭訪問	・本人の顔を見て話をする。その際、様子を確認するとともに、保護者とも最近の様子について話をする。「困っていること」「心配なこと」「体調は？」等の声かけを行い、じっくりと寄り添う ・学年内で、可能な限りの情報収集を行う （最近の様子、気になることなど不登校の要因がないか） ↓ 学年生指が情報を集約、生指部会で報告 明らかなケガや病気等で心配がないと判断できるケースを除く。 ↓ 不登校委員会（生徒指導部会）でアセスメント ※可能なら当該クラスの担任も出席 ・本人（学力・病気・性格・発達等） ・家庭環境（家族・経済・衣食住等） ・虐待（身体的・心理的・性的・ネグレク等） ・学校生活（友人・学習状況等） ・いじめの疑い ・日常生活（睡眠・食事等） 例　母親の不安が子どもに影響している ➡母の不安を軽減する方策を考える ・SC や相談機関の紹介等を勧める

②中期対応（１週間～29 日）　不登校状態が始まっていると考えてあせらずに対応をしていく

保護者や本人の意向を考慮しながら、家庭訪問を行う
登校への働きかけは必要だが、**「焦らず」「放任せず」**に、本人が安心できる環境をつくる
SC と連携するなど、カウンセリング等を積極的に行っていく。

家庭訪問で…

本人と
会える状態 ➡

・家での様子
・今、興味関心のある事
・友達のこと
・学校の様子など
・可能であれば登校について話をする

★無理に会おうとせず本人の気持を尊重する
★直接学校のことを聞いて、緊張させることがないようにする
★学校の様子を伝え、クラスの一員としての存在感を持たせる

本人と
会えない状態 ➡

・保護者と話をする
・家庭での本人の様子
・保護者の悩み
・今後の対応

★「不登校」という状況に対して複雑な思いを持っている、保護者の気持ちを受け止める
★問題点や欠点を一方的に伝えるのではなく、一緒に考えていくという姿勢を持って話をする

③長期化した時の対応（30 日以上）

登校できないことが、日常的な生活リズムになっていることへの
対応を行う（本人・保護者・クラス、**必要に応じて関係機関と連携**をしてく）

⬇ 長期欠席の生徒は、担任のみならず学年教師で関わるようにする

（１）家庭訪問は担任のみならず、複数人で対応し、記録を残しておく
（２）本人の状況を踏まえ、学年で「今後の対応の流れ」を協議して計画します
（３）協議した結果を生徒指導部会で共有する
（４）必要であれば、生徒指導主事が専門機関へ相談・連携をとる

※家庭訪問のみならず電話対応などの対応も、記録を残しておくようにします。

★状況に応じて、学習室の使用なども進めていく。

参考資料

<table>
<tr><th colspan="2">生徒の状態とレベル</th><th>登校状況</th><th>外出状況</th><th>状況の詳細</th><th>対応方針</th><th>対応例</th></tr>
<tr><td>レベル０</td><td>ほぼ平常に登校中</td><td rowspan="3">登校できる</td><td rowspan="5">外出できる</td><td>・時折、登校渋りが見られることもあるが、毎日登校できている</td><td rowspan="3">早期発見・早期対応期</td><td>・気にかけて教育相談を行う</td></tr>
<tr><td>レベル１</td><td>遅刻欠席がしばしばある
保健室に行くことが多い</td><td>・週１・２日欠席する程度
・登校しているが遅刻早退が半分程度ある
・保健室をしばしば訪れる</td><td rowspan="2">・他の教員とも連携し、じっくりと本人の思いを聞き取る
・状況によって、教室にこだわらず別室や SC を活用する</td></tr>
<tr><td>レベル２</td><td>半分以上欠席
別室登校</td><td>・週３日以上欠席
・登校しているが、ほとんど保健室や別室で過ごす</td></tr>
<tr><td>レベル３</td><td>学校外の施設（ルポ・フリースクール・塾など）へ、定期的に参加できる</td><td rowspan="4">登校できない</td><td>・学校には登校できないが、学校外の施設には定期的に通うことができている</td><td rowspan="4">復帰支援・自立支援期</td><td>・生徒が通える場に出向いて学校の様子を伝えたり、学習支援を行い再登校に向けた準備を行う
・本人と相談しつつ、時差登校や別室登校などを提案する</td></tr>
<tr><td>レベル４</td><td>気軽に外出できる</td><td>・登校はできず、　定期的に通う施設もないが、比較的自由に外出はできる</td><td>・ルポや別室登校を勧める
・SC による保護者のカウンセリング</td></tr>
<tr><td>レベル５</td><td>外出が難しい</td><td rowspan="2">外出できない</td><td>・登校はできていないが、家では落ち着いて生活している。

・外出はほとんど出来ないが、家族とは関われる</td><td>・散歩や買い物など、できる限り外出することを勧める。
・気になっていることなどの相談に乗ったり、家でできる活動を一緒に考える</td></tr>
<tr><td>レベル６</td><td>部屋に閉じこもり
家族とも顔を合わせない</td><td>・登校できず、ほとんど自室に引きこもっている
・家族との関りも少ない
・精神的に不安定で、生活リズムも大きく乱れている</td><td>・生活リズムの安定を最優先する
・医療・福祉機関との連携を図る</td></tr>
</table>